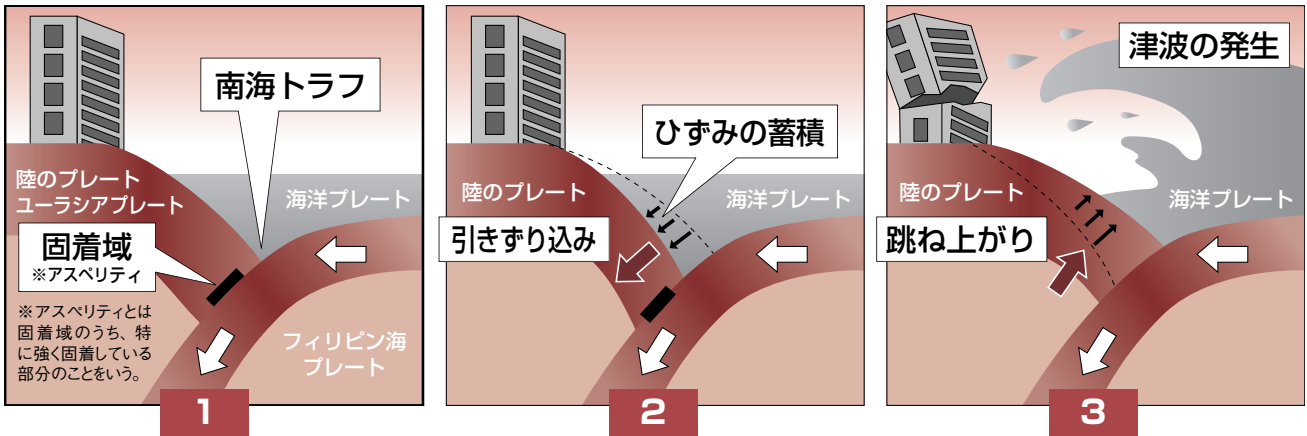


▼海溝型地震 発生のおしり



海洋プレート(フィリピン海プレート)が陸のプレート(ユーラシアプレート)の方へ移動し、その下へ潜り込む。

陸のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。

ひずみはその限界に達したとき、陸のプレートが跳ね上がり、海溝型地震が発生する。その際、津波も発生する。

必ず来る大地震！

そして津波も…

蒲郡市を含む東海地域では、100〜150年の周期で、マグニチュード8クラスの大地震が起きています。前回の安政東海地震が発生してから、今年で151年目。大地震は、いつ起きてもおかしくありません。地震が起きたとき、さらに心配されるのが津波です。正しい知識を知り、いつくるか分からない大災害に備えましょう。

「グラッときたら、まず避難」

ある大学の災害研究室の調査によれば、大多数の人は、津波警報が出て逃げずに、テレビの前や市町村の同報無線放送設備の下で情報を待っていました。しかし、状況によっては、地震の発生から、数分で津波が襲ってくる場合もあります。

市では、津波警報が出た場合、できるかぎり早く同報無線放送などで避難勧告をしますが、地震発生と同時に避難勧告を行うことは不可能です。情報を待っている間に津波が到達してしまいう危険性があります。

津波警報は外れることもありえます。しかし、避難した後、「外れてよかった」と言い合える地域づくりをめざしましょう。

「津波に対する大きな誤解」

みなさんは、次のようなことを信じてはいませんか。

●「蒲郡市は半島に囲まれているため、津波の心配はない。」

↓半島内でも、震源が三河湾内であつたり、地震の規模によっては、大きな津波が襲ってくる可能性があります。しかもそのような場合には、すぐに津波が到達することが予想されます。

●「揺れが小さい(震度が小さい)時は津波の心配はない。」

↓揺れが小さくても、遠方で大きな地震が発生していることがあります。津波のエネルギー減衰は少ないので、数時間後に大津波が襲ってくる可能性があります。(チリ地震では、ほぼ一日後に津波が日本に到達しています。)

●「津波の前には、必ず一旦潮が引くから、引くのを確認してから避難すればよい。」

↓地震のあと、急激に潮が引けば津波が来ます。しかし、潮が引かずに来る津波もありますので、地震の後に海岸に近寄るのは非常に危険です。絶対にやめましょう。